

npellet を移植, 2週の子宮頸部上皮, 3) 教室で開発した 20-methylcholanthrene 系を子宮頸癌に適用しさらに estrogen 投与によつて誘発した異型上皮, 子宮頸癌。

研究成績) 1) 去勢により胞体は小さくなり細胞質内の tonofibril, ribosome. 粗面小胞体の減少および Golgi 野の発達低下を示し全体として貧弱となる. 2) estrogen 投与によつて核では核小体の増大, 細胞質では Golgi 野の発達, Golgi vacuole の拡大, 粗面小胞体の増加, free の ribosome 増加, 特に polysome に凝集した ribosome の増加は視覚的並びに counting でも増加することにより estrogen の蛋白合成促進作用を確認した. 3) 基礎実験で発癌率は去勢+estrogen, 去勢, 非去勢群の順となり, estrogen 投与群でもつとも発癌率が高く且つ腫瘍増大傾向を示した. さらに超微形態学的には著明な蛋白合成促進作用が異型上皮および癌組織で認められ, estrogen の腫瘍発育促進作用と 20-methylcholanthrene との加算作用を示唆する所見を得た.

質問 (伊勢市亀谷病院) 亀谷 謙

1. 電子顕微鏡によつて得られた所見を僅か枚数の写真で客観的に示すことはむづかしいとは思いますが, 核の大小を云々する場合などは, やはり低倍率の写真で少なくとも10数個の細胞が同時に撮っている写真で示していただきたいと思ひます.

2. polysomal な ribosome が増えるとか vacuole が増すと intramitochondrial body が出現するとかの変化は estrogen 投与の結果なのか癌の特異的な所見なのかどちらなのですか.

3. ribosome の counting の仕方は, 写真上の一定の面積で counting をされたのですか, その中に含まれる細胞数は何個ぐらいですか.

答 (札幌医大) 工藤 隆一

1) スライドの枚数の関係上弱拡大の同一倍率では比較しておりません. しかし電顕写真撮影時は同一倍率で比較した所見です.

2) 単に estrogen だけの作用とは考えられない. 20-MC 単独作用での異型上皮の場合, estrogen 単独より ribosome の増加および糸粒体の増加等が認められる場合が多い. 一方20MC単独作用の同一病変とさらに estrogen 併用のものを比較した場合 estrogen 併用の場合著明な ribosome および polysome の形態をとることにより20MCと estrogen の加算された変化と考える. intramitochondrial body の出現については20MC

のみでも出現しますし, スライドで示したところに高濃度の estrogen 投与によつても出現します. 両者を作用させた場合, 大きな intramitochondrial body および数の増加を伴いません, このことから加算された所見としました.

3) ribosome の counting は同一細胞層で糸粒体, 小胞体を除外した  $1\mu^2$ , 15視野での平均値である.

#### 121. 子宮癌患者の臨床像の疫学的統計的観察 (東京癌研究会附属)

増淵 一正, 根本 裕樹, ○鈴木忠雄

子宮癌の発生に関連のあると思われる諸因子を疫学的な立場から調査した. 被検症例は, 頸部上皮内癌 136例, 頸部腺癌49例, 頸部浸潤扁平上皮癌 229例, 体部癌 74例, 対照として非癌 200例, 患者の配偶者血縁 169例を選び, 面接問診した. 体癌の調査の一部は全治療例 228例について行なつた.

##### 1. 性生活について

a. 初交年令: 頸部上皮内癌22.5才, 腺癌21.5才, 浸潤癌21.3才, 体癌22.5才, 対照23.0才で, 頸癌の初交年令はやや早い. 体癌の5%は性経験を有しない.

b. 性交頻度: 結婚後1年目ぐらいの時期で頸部浸潤癌と体癌に週5回以上のものがやや多く, 他のグループでは差がなかつた.

c. 性交対照: 再婚以外で2人以上の男性と性行為の経験あるものは各グループとも10%前後で著差はない.

d. 性病のうち梅毒罹患率は頸部浸潤癌 6.6%, 非癌 1.0%, 梅毒反応陽性率は頸部浸潤癌11.8%, 非癌 2.6%, 性交対照の包茎は頸癌12.2%~17.8%, 非癌 7.5%であつた.

##### 2. 妊娠歴

初産年令は頸癌3群で平均22.5~23.9才, 体癌24.2才, 対象24.3才, 未産は頸癌7%, 体癌32.4%, 対象 11.5%, 人工中絶回数, 頸癌と非癌に差がなく, 自然流産は体癌と非癌に差はない.

##### 3. 遺伝関係

癌患者と配偶者について血縁の癌患者をみるに, 癌患者の家系に癌が多く, とくに母系に多い. 体癌では3等親以内の癌を有するものが32.4%であるが, 重複体癌18例では66.7%が血縁に癌を有し, また18例中2例は3重癌, 1例は4重癌で, 遺伝性のきわめて濃厚なことが知られた.

質問 (大阪医大) 浜田春児郎

御講演の中に最近体癌の発生が上昇し, Diabetes あ

るいは社会的ヒズミが関係あるとありました。その中にはいろいろな要素が考えられますが、ホルモン剤特に Erstrogen 剤の連用が先行していたというものはありませんでしたでしょうか。もしありとすれば、その状況をお示し願いたい。

答 (東京癌研) 鈴木 忠雄

最近ではエストロゲン長期連用例はむしろ少ないようです。社会環境上の問題としては、栄養過剰・運動の不足、コレステロール上昇などの点が重要かと思えます。

## 122. 子宮癌に於ける Pelvic necrosis に対する骨盤内臓器全摘出術

(川崎市立病院) 山本 浩  
林 茂, 落合 寛, 長田 宏  
岩田 嘉行, 高橋 正敏, 武井 宏澄  
佐藤 和也, 丸山 浩, 浅岡 健

手術不能子宮癌治療は放射線療法、抗癌剤治療が中心であるが癌浸潤の進行による組織壊死や放射線による壊死などの骨盤内壊死の生成は日常われわれ産婦人科医がよく経験する。しかし一旦骨盤内に壊死が生ずると悪臭を伴う頑強な帯下に悩み、かつ激烈頑固な疼痛は麻薬の通用を余儀なくされる。さらに壊死は時々刻々その範囲を広げ膀胱、直腸の尿瘻、糞瘻をも起し、患者自身の不快感はもちろん、尿路系および骨盤内に反復する感染を生じ、発熱による食欲の不振ひいては全身状態の低下を来す。就中腎、肝機能障害をおこし不幸な転帰をとる。

一方手術不能患者で比較的十分な照射療法をなし遂に死亡した剖見所見に癌組織が発見できず、ただ壊死組織のみの例が少なからずある事実から、その死因は癌そのものではなく、広汎な壊死組織の存在と必然的に起る感染あるいは疼痛などに原因する一般状態の悪化が主要な役割を果していると考え、骨盤内の壊死組織を取り去り患者の苦痛の軽減と救延命をはかる目的で壊死組織とともに骨盤内臓器の全剔出を施行し、比較的良好な成績を得た。

われわれは6例の骨盤内臓器全剔出術を行ない、術後最長13カ月、7カ月、6カ月および2カ月の4生存例と2死亡例の中1例は5カ月後家庭内の事情による自殺例で1例は術後14日目に死腔内腸管脱落による腸壊死による死亡例である。

生存例は自覚的帯下、疼痛からの完全な解放体重増加、赤沈値の好転による一般状態の改善により生への期待と社会復帰の希望に充ちた日々を送っている。

われわれは、手術不能、子宮癌患者に十分な放射線治療後 Pelvic necrosis の排除のため手術的に患部を剔出良好な結果を得たが今後の癌治療には上手な放射線、抗癌剤、治療等を活用して手術の可能性の範囲を拡大すれば子宮癌治療成績を著るしく向上することができると思われる。

質問 (東京癌研) 鈴木 忠雄

放射線治療後の広汎、超広汎手術において肉芽再生が悪く、蛋白の損失が多く全身状態の回復が悪い例を経験します。こういう例の扱い上とくに気をつける点がありましたら。

答 (川崎市立) 山本 浩

直腸粘膜を少しも残さないように、完全に肛門まで摘出し、太目のドレナージを日を追いつつ短縮しながら確率的に設置すること。

全身的にプラスマネートを術後数日間投与して蛋白質補給に努める。

## 123. 子宮頸癌根治手術(岡林式手術)の予後の改善に関する研究

(国立大阪) 小倉 知治, (三重大) 根根潤之助

研究目的: われわれ産婦人科医がその治療に最大の尽力をしている子宮頸癌の治療成績をさらによくするを目的として研究を開始した。

研究方法: 最近9年間に治療した1373例の子宮頸癌について、その治療法と治癒率を検討し、今後の治療方針の改善に資せんとした。なお手術は岡林式によつた。その外に放射線療法や制癌剤も並用した。

研究結果:

1. 治療成績 5年治癒率はI期90.3%, II期72.3%, III期36.6%, IV期11.5%であつた。
2. リンパ節転移のありしものの5年生存率は転移なきものに比し甚だ悪い。仙骨節, 骨盤壁静脈叢間節, ことに岡林節の廓清は怠るべからず。
3. 術後再発は陰断端が一番多かつた(43.6%)。陰断端の組織学的検査を行ない、ビランまたは陰炎のようにみえるもの、さらに健常にみえる上皮下にも組織学的に癌浸潤のあるものを見た。陰断端の鏡検は全例に行なうべきである。Ra等の後照射は断端再発の防止効果あり。
4. 制癌剤としては、マイトマイシン、テスパミン、エンドキサンを他療法と並用した。その結果リンパ節転移例では制癌剤の並用は多少の効果があるようであつた。